

一戦後 80 年 道内に残るトーチカを通し

今そしてこれからの行方を考える一

1、トーチカ築造の経緯とその時の日本について

2、現存する 101 基のトーチカの地域別にみる特徴（確認済み消失数 4 基）

- ・ 胆振地区（16）
苫小牧市（6）、厚真町（5）、鶴川町（5）
- ・ 十勝地区（50 [1]）
広尾町（19 [1]）、大樹町（26）、浦幌町（2）、豊頃町（2）
- ・ 釧路地区（15）
白糠町（2）、釧路市（5 [1]）、厚岸町（3）、浜中町（5）
- ・ 根室市（15 [1]）
落石・桂木・長節・友和・東和田・牧の内・昆布森（歯舞）（15 [1]）
- ・ 網走市（5）
北浜・藻琴・鱒浦（3）、帽子岩・台町（2）

3、終わりに、トーチカが語ること

私が行ってきた調査成果をまとめ、2022 年に「北海道のトーチカ」として発刊しました。

そこでは、道内 95 基の確認したトーチカを記載していますが、その後新たに 6 基を確認し、現在は 101 基を数えております。また、案内板の設置や歩道などを配し、町（教育委員会）が管理しているところは、大樹町と広尾町の 2 基のみです。

当時の記憶を無言で語るトーチカは、風雨にさらされ波にのまれ、港や工業団地の開発、道路等の造成に伴う破壊や海岸侵食による海没などで、姿を消してきております。

終戦から 80 年が経過し、戦争体験の語り部が減少していく中、各地の自治体や郷土史家・研究グループの方々によって、歴史の教材や観光資源として活用しようとする動きが見られるようになりました。

防衛陣地の遺構は、平和や国防についての教材としても築城史を研究する上でも重要なものであると考えます。「トーチカを見れば、日本が戦争をしていたことが実感できる。史実として次の世代にも語り継がなければならない史跡」と私は考えます。